

「出産なび」について

これまでの運用状況

- 「出産なび」は、年間分娩取扱件数が21件以上等の要件を満たす施設のほぼ全て（99.9%）に掲載の同意をいただく等、全国の2,112施設の情報を掲載している。
- 令和6年5月30日の開設以降、200万超のPVがあり、現在は若年女性と推定されるユーザーを中心にアクセスされている。
- 各種メディアを通じた広報のほか、自治体や薬局・ドラッグストア等と連携する等、様々な手法で周知に取り組んでいる。
- 研究班（※）や「出産なび」サイト内に設置したアンケートフォームによれば、安心感、納得感、効率性といった観点から一定の評価を受けている。
- また、分娩取扱施設に関する情報の充実や検索機能・サイトアクセスの向上、妊婦健診・産後ケアに関する情報の掲載などについて要望が寄せられている。

※出産育児一時金の見直しを踏まえた出産費用の分析並びに産科医療機関等の適切な選択に資する情報提供の実施及び効果検証のための研究（令和6年度厚生労働行政推進調査事業補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）））

本日で議論いただきたい事項

- 妊婦が安心して出産できる環境を整備する観点から、「出産なび」に掲載する情報について、見直すべき点はあるか。
- 妊産婦の立場から、「出産なび」をどのように活用していくことが考えられるか。
- 医療提供者や相談支援者の立場から、「出産なび」をどのように活用していくことが考えられるか。
- 妊婦やそのパートナー、妊娠を考える方々などに対し、どのような周知・広報の取組が考えられるか。

前回いただいた主なご意見①

(総論)

- 「出産ナビ」について、多くの分娩機関が参加されたことは評価をしたい。
- これまで個々にホームページで調べるか、あるいは直接問い合わせることでしか情報収集ができなかった分娩施設の情報を、「出産ナビ」で検索し、比較できるようになったことは、出産にかかる費用や内容の見える化に向けた大きな前進。
- 妊産婦さんたちから「非常に安心につながっている」と聞いている。
- 「出産ナビ」は非常によいツールだと感じており、いろいろな要望が実現すると、大変すばらしいと考えている。
- 「出産ナビ」の情報を追加してほしいという声が高いことは認識している。「出産ナビ」の構成は長い時間をかけて議論してきたので、今後拡充していくということであれば、丁寧な議論が必要。
- 妊娠検査を受ける前の人にリーチするのは非常に難しいので、SEO対策上の工夫が必要。

(出産に関する情報の充実について)

- 分かりやすい情報の充実や、施設検索等の機能改善に取り組んでいただきたい。また、特に費用に関する情報については、妊婦の方の不安感払拭のためにも、さらなる詳細データの開示をぜひともお願いしたい。
- 助産所をはじめ、分娩件数が20件以下で掲載している施設の中には、出産費用に関する情報が - (バー) になっているものがあるが、注釈をつける等、趣旨を明らかにしていただきたい。

前回いただいた主なご意見②

(妊婦健診に関する情報の充実について)

- 十分な情報に基づいて選択できる環境整備に向け、地域や施設ごとに異なる妊婦健診についても見える化が必要。「出産なび」での妊婦健診の内容や費用の掲載、妊婦健診のみを実施する施設への対象施設の拡充をお願いしたい。
- 最初の妊婦健診に訪れる人は、すでにその施設で産もうと考えており、その前の段階の人たちにリーチする必要がある。そのためには、妊娠したかもと思い妊娠検査を検討中の人にとって有用な情報、例えば妊娠検査が受けられる施設一覧が「出産なび」とリンクしていると良い。
- 妊娠・出産に関するいろいろなデータが、データラング的に載っている部分があると、興味を持つ人から口コミが広がっていくので、妊婦健診の公費負担などの情報を「出産なび」に載せていくと良い。
- 妊婦健診は、毎回予期できない自己負担を繰り返し、医療機関に「それはオプションの検査だと思うのでいらない」と言えるほど知識もないのが妊婦の実態。この病院なら妊婦健診がいくらで、それに対してこの市区町村に住んでいるなら補助がいくらで、差額分については自分で支払う必要があるということが事前に分かっているのが望ましい。それが「出産なび」があればできるのかなという期待感がある。
- 出産費用だけでなく、妊婦健診費用についても、産むまでに幾らかかるのかが可視化されて、それに備えられるようになり、何に対してお金を払っているのかの納得感が得られるようにすべき。
- 「出産なび」は、経緯からすると、研究班で議論して作り上げてきたもの。費用の情報を医療機関が自主的に出すとかなりの労力を要するため、医療機関の負担を考慮して、直接支払制度の専用請求書のデータから算出している。妊婦健診・産後ケアは専用請求書がないので、将来的には取り組んでいきたいが、医療機関の負担にならない方策を考えないと、今すぐの実現するのは難しいのではないかと。

(産後ケアに関する情報の充実について)

- 産後ケアのニーズは非常に高く、利用料金よりは、産後ケアをやっているのか・やっていないのかといった実施状況、実施施設だとすればショートステイ型・デイサービス型・アウトリーチ型のうちのどの類型に対応しているのかを知りたいという声はかなり集まっている。
- 助産師が妊産婦に「出産なび」を紹介すると、「産後ケアの実施施設等についてもチェックできるのか」と尋ねられるという声もあるので、この点については少し早めに対応いただけるよう、検討を進めていただきたい。
- 「出産なび」が産前・産後に光を当てて、どういうふうに見せていくかというのは非常に大事。産後ケアは申請手続きが難しく、申請したその場で使えるサービスではないので、なるべく分かりやすく使いやすいよう情報を出していくことが必要。
- 産後ケアの情報が非常に重要で、当事者としてぜひ使いたい機能。自治体のウェブサイトでは、契約施設がずらっと一覧になっていて、そこから自分で通える範囲の施設で月齢などの条件に合う施設を、産後のもうろうとした意識の中で探さないといけない。
- 住所など特定の場所を入力すると、何キロ以内の施設のうち、自分の条件で自治体の補助が利用できる施設が表示される、例えば「この区で、この月齢で使えるのはこの3件です」ということが表示されると非常に簡便だと思うので、ぜひ実現していただきたい。

今後の対応の方向性

主なご意見（要約）

- 妊婦健診の段階で出産施設は決まっている場合が多く、その前の段階の人にリーチしていかなければならない。
- 出産に関する分かりやすい情報の充実が必要である。
- 妊婦健診の内容や費用を掲載し、妊婦の予見可能性を高めることが必要である。
- 利用可能な産後ケア施設に関する情報が簡便に得られないことがネックであり、妊婦に分かりやすく情報を届けることが重要である。
- 「出産なび」の構成は時間をかけて議論したものであり、今後、情報を充実させる際も丁寧な議論が必要である。
- 情報の充実が医療機関の負担にならない方策を考えないと、今すぐに実現するのは難しい。



今後の対応の方向性

- 妊娠前の方も含め、「出産なび」をより多くの方に活用していただくよう、周知広報に取り組んでいく。
- 出産に関する情報のさらなる充実や、妊婦健診・産後ケアに関する情報の掲載の必要性については、おおむね趣旨に賛同いただいたところ。
- 掲載内容の拡充が医療機関・自治体等にとって過度な負担とならないよう留意し、具体的な情報収集等の進め方について、関係団体等と丁寧に調整していく。
- これらの内容について、早期に対応可能なものから順に、実装を進めていく。